

オープンを目前に控えたカフェの店内を背景に、笑顔をみせる大樹さん



先人たちのストーリーを紡ぎだし 未来にバトンをつないでいきたい



いわくま 岩隈 たいじゅ 大樹さん (33歳)
金ケ崎町永栄在住

合同会社いと・をかし代表社員。趣味は登山、旅行（一人旅）、映画鑑賞（B級映画）。弟と2人暮らし。

▶古民家交流空間「永」

(8月29日(土) OPEN 予定)

■住所 金ケ崎町永栄平の下 22

■電話 ☎ 080-5403-8643

■営業時間 11:00 ~ 17:00 (定休日:月火)

※詳細は Facebook などでご確認ください。

金ケ崎の子どもたちに、「地元にあるものを使って自分らしく楽しく仕事ができる」ということを伝えたい。そう話す大樹さんは、8月29日に古民家交流空間「永」(カフェ、貸しスペース)をオープンする予定だ。

大樹さんは埼玉県で生まれた。大学卒業後は、東京のシンクタンクでダムなどを工事する際の遺跡調査をしていた。その後、2014年から3年間、金ケ崎町の地域おこし協力隊として活動した。金ケ崎町を選んだきっかけは、なくす遺跡を記録するのではなく、文化財を未来に残して活用するための仕事があったからだという。

地域おこし協力隊の任期を終えた大樹さんは、東京の社会人大学院で『子どもたちに向けた郷土史学習』を研究した。大学院に通う間も、月に一度は金ケ崎を訪れているうちに、金ケ崎の人たちとの縁を強く感じるようになったという。大学院2年目の秋、起業することを決意した大樹さんは、一度きりの人生でやりたいことをするならば、東京よりも金ケ崎を拠点にしたいと強く思うようになったという。

「文化財などは活用して、未来に価値を生み出していくために存在している。古民家など、この土地ならではの歴史に根ざした使い方を提示していきたい」と話す大樹さん。今後は、「古民家活用などのコンサルタントにも挑戦していきたい」と笑顔で話してくれた。

広報日記



皆さんは夏休みの思い出はどのようなものがありますか。夏休みシーズンに突入り、小学生の活動をいくつか取材させていただきました。取材中、子どもたちがクワガタを発見した時は、私も興奮してしまいました。小学生以来、野生のカブトムシなどを見ることはありませんでしたが、金ケ崎で今でも当たり前に発見できたことがうれしかったです。ちなみに私はカブトムシだと思って大事に育てていた幼虫が羽化したら別の虫だったことを思い出しました。(村口)

広報かねがさき アンケート 始めました!!

ご意見をお聞かせください!



人口と世帯

人口	15,573人	(- 14)
男	7,979人	(+ 1)
女	7,594人	(- 15)
世帯数	6,165世帯	(- 3)